

II 集団指導の実践報告

本章では、集団指導の実践として、小学校と中学校における指導経過と成果について報告する。集団指導の実践は、学校においては授業として取り組まれる。授業の構想は、一般的には学習指導案として表現される。本事業では、一般的な学習指導案の様式に、「学級集団の実態を踏まえた指導方法」と「対象とする児童生徒の実態を踏まえた指導方法」を追記することにした。前者は、どの児童生徒も学習しやすくするための「基礎的環境整備」と言える。後者は、特別な支援を必要とする特定の児童生徒が学習しやすくするための「合理的配慮」と言える。

その上で、両者の具体的内容については、対象とする児童生徒の認知特性を踏まえ、授業者及び参与観察者による日常の授業実践中における試行錯誤をもって開発し、ブラッシュアップした。

なお、対象とする児童生徒は、後述する個別指導（III 個別指導の実践報告）の対象でもあることから、把握した児童生徒の実態や有効な支援方法に関する知見は、参与観察者を通じて共有し、活用した。